

アルミ導体ケーブル メガソーラーに納入

古河電工

古河電気工業は17日、高機能型アルミ導体CVケーブル「らくらくアルミケーブル」が、阿久根第一・第二太陽光発電所建設工事（鹿児島県阿久根市）に採用され、新製品の6600kVA用ケーブルを初めて納入したと発表した。メガソーラー発電所建設での延線工事の省力化・省人化・効

率化に貢献し、約20%の省力化を実現した。

同製品は、同社と古河電工産業電線が開発・製造し、SFCC（川崎市、黒須光明社長）が販売。ケーブル導体にアルミニウムを採用し、一般的な銅導体ケーブルと比べ30～50%軽量で、扱いやすく柔らかいことから、延線作業を効率化して工期短縮につながる。

今回は、高圧キュービクル間の配線に60平方メートルの660



6600kVA AL-CVTケーブルの延線作業

0kVAアルミ導体ケーブル447kVA、集電箱と接続箱間の配線に100平方メートルの600kVAアルミ導体ケーブル2

799kVA、接続箱とPCS（パワーコンディショナー）間の配線に400平方メートルの600kVAアルミ導体ケーブル2098kVAを納入した。また、キュービクル内での端末処理に屋内終端接続材料も納入している。

施工を担った大鹿電業（鹿児島市）からは「600kVAと6600kVAのアルミ導体ケーブルの採用は、軽量化による省力化効果を狙ったもので、実際に約20%の削減効果があった。また、作業員の疲労も軽減した。6600kVAアルミ導体ケーブルの端末処理でのブラッシング工程も慣れれば問題はない」との声が寄せられている。

